

「今週中」と「今日中」

— 日本語教育における「中」の用法をめぐる —

吉田 奈保

〔要 旨〕

「今週中」はコンシュウチュウと読むのに「今日中」はキョウジュウと読む。日本語に多く見られる連濁は、日本語を学ぶ外国人学習者にとっては頭の痛い問題である。日本人ならば字をみて即座に「中」の読みを判断するが、そこには何か法則があるのだろうか？ 本稿では、接尾辞「中」のついた派生語における連濁の有無を意味の観点から分析した。その結果、連濁の有無には意味と語種の双方が関わっていることが分かった。

1. はじめに

「先生、『今週中』という語はコンシュウチュウと読むのに、『今日中』はどうしてキョウチュウと読まずにキョウジュウと読むのですか？」台湾出身の学生からのこの質問が私に日本語に見られる連濁の現象について考えるきっかけを与えてくれた。

「今週中」も「今日中」もそれぞれ「今週」＋「中」、「今日」＋「中」という2つの部分から成り立っている。語は、一つの自立成分で出来ているかどうか、非自立成分を含んでいるかどうか、成分間の結合関係はどうかなどによって分類することが出来る。玉村(1985)は日本語の語構成について、次のような分類を行っている：

まず、「手」、「目」、「見る」のように自立成分1個で出来ているものを〈単純語〉‘simple word, einfaches Wort’または〈一次語〉‘primary word’とし、これに対して、「春風(はるかぜ)」「走りまわる」「にくらしさ」のように1個の自立成分と他の成分(自立、非自立を問わない)との結合によって成り立っているものを〈合成語〉とし、さらにこの合成語を以下の3類に分けている：

- a 〈複合語〉 ‘compound word, Zusammengesetztes Wort’
→ 複数の自立成分の結合によって出来ているもの
例) 山桜 踊り狂う 山川
- b 〈畳語〉 ‘reduplicated word’
→ 同一成分の重複によって出来ているもの
例) 人々 我々 泣き泣き たかだか だろだろ
- c 〈派生語〉 ‘derived word/derivative, Abgeleites Wort’
→ 自立成分にいくつかの接辞が添加して出来ているもの
例) 男-らし-さ お-子-さん

また、複合語には次のようなものがあるとしている。

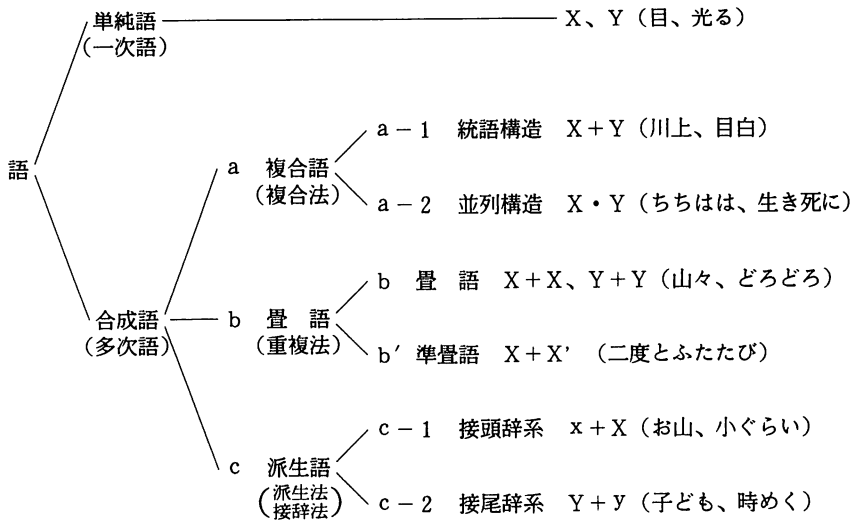
- a-1 〈統語構造〉(〈従属構造〉) ‘syntactical composition’
→ 複数の自立成分の間に、主語、述語の関係、修飾語被修飾語の関係などの統語的な関係が認められるもの
例) 雨降り 革靴 ぽっと出
- a-2 〈並列構造〉(〈等位構造〉) ‘juxtapositional composition’
→ 複数の自立成分が対等の資格で結合していて、成分間に統語的な関係の見られないもの
例) 山川(やまかわ) 手足 飲み食い

又、畳語についても準畳語として次のような語をあげている。これらは、同一成分ではないが、同義語の重複と考えられる。

例) 二度とふたたび おめずおくせず

更に、派生語についても、接頭辞を使うか、接尾辞を使うかによって2類に分けている。

以上の分類を図に表すと、次のようになる（自立成分をX、Yで、非自立成分をx、yで示す）。



(国立国語研究所発行 語彙の研究と教育(下) P.9より抜粋)

これによると、「今週中」という語はc-2の接尾辞系派生語になると考えられる。

ところで、いくつかの成分が結合して合成語が作られるとき、しばしば、成分の音素に変化が生じるが、このような音素変化を〈変音〉‘phonological change’ とよび、そのひとつに連濁がある。連濁とは、今日(キョウ) + 中(チュウ)が今日中(キョウジュウ)となるように後の構成要素の最初の子音が濁音になる現象を言うが、連濁がどのような条件で起こるのかについてはっきりとした規則は発見されていない(大坪1982)。

ここで冒頭の留学生の質問に立ち返ってみる。今日中(キョウジュウ)では

連濁がみられるのに今週中(コンシューチュウ)では見られない。日本人であれば、その字を見ただけで自動的にチュウと読むかジュウと読むかを判断する。しかし日本語を外国語として学んでいる外国人にそれを要求するのは無理である。やはり、何らかの法則性を見だし、それを教授し、日本語学習の助けとなるような方法を考えるべきだと思われる。

そこで本稿では派生語における接尾辞「中」の連濁現象について考察していきたいと思う。

2. 「チュウ」と読む派生語及び「ジュウ」と読む派生語にはどんなものがあるか。

2-1 ここでは、まず思い付くまま「チュウ」と読む語をあげてみる。

テスト中 工事中 今週中 来月中 午前中 一両日中 49都道府県中
準備中 今月中 来年度中 授業中 請求中 出願中 取込中 電話中
今年度中 申請中 放送中 話し中 夏休み中 日中 5人中 家中
渦中 火中 心中 胸中 山中 水中 本文中

2-2 次に「ジュウ」と読む語をあげてみる。

今日中 今年中 明日中 一日中 町中 世界中 家中 県中
アメリカ中 夏休み中 一年中 心中(シンジュウ)

圧倒的に「チュウ」と読む語のほうが多い。従って、「中」のついた派生語は、連濁していないものが基本であると考えられる。

3. 次に、上で挙げた語の共通点を捜し規則を立てて検証してみる。

3-1 まず、土岐(1990)によると連濁の規則についてはすでに次のようなことが分かっている：

3-1-1 合成語が「動詞+動詞」の語は連濁しにくい、その転成名詞は連濁するものがある。

例) 話しかける ; 話しかけ 食べかける ; 食べかけ
行きかける ; 行きかけ 通りかかる ; 通りかかり

3-1-2 「名詞+名詞」の語

1) 並列や対等の関係にある場合は濁音化しにくい。

例) 山川 草木 上下(うえした)

2) 修飾関係にあっても後部第2拍が濁音の場合は濁音化しにくい。

例) くずかご ざるそば 札たば まちかど

3) 後部が形容詞/形容動詞でも第2拍が濁音なら濁音化しない。

例) 礼儀ただし 心さびしい 手きびしい

4) 後部第2拍が清音の場合、名詞、形容詞とも濁音化する。

例) 夜ざくら 紙ぶくろ 絵ごころ

3-1-3 「名詞+動詞」で、前部が後部の目的格になっている転成名詞は連濁しにくい。

例) 絵かき 肩たたき 魚つり

3-1-4 擬声・擬態語は連濁しない。

例) きらきら(きらぎらとはならない) しくしく さらさら

3-1-5 促音の直後は連濁しない。

例) これっくらい これっきり ありったけ かったるい

補足1 ハ行音、バ行音がパ行音になることがある。

例) 書きっぱなし 立ちっぱなし 話っぶり

補足2 動詞の過去形でみると 促音>連母音>撥音の順に連濁しにくい。

例) 言った 照った 乗った 貼った
はいだ 継いだ 聞いた 泣いた
飲んだ 飛んだ すんだ 踏んだ

(大修館書店 日本語教育ハンドブックより)

ところで、本稿で問題にしている「中」と結合した派生語に関係する規則は見当たらない。「中」が連濁を起こすか否かというのは、合成語の前部の構成要素にかかわっていると考えられるからだ。したがって本稿では、上記の規則を採用することなく独自の規則を用いて分析していくことにする。

3-2-1 「中」と結合する語が和語のときは連濁がおこる。

日本語の語彙は、和語、漢語、外来語及びそれらの混成で出来ている混種語に分けられる。和語とは元から日本語の中にあって外国から受け入れたものではない単語をいい、漢字を用いた場合は普通訓読みされる。又、漢語とは、通常漢字で書かれ音読みされる語を指す。そして和語、漢語、外来語の3語種のうちの2種以上の結合による複合語を混種語と言う。和語の語形の特徴のひとつとして連濁をおこしやすいといわれているが、それをふまえて上のような規則を立てた。この規則を適用すると、

例) 今日+中 → キョウジュウ 町+中 → マチジュウ
となる。しかし、次のような例はどうだろう。

例) 世界+中 →*セカイチュウ アメリカ+中 →*アメリカチュウ
(漢語) (外来語)
話し+中 →*ハナシジュウ
(和語)

これらはいずれも不適格になってしまう。「世界中」の「世界」は音読みなので一応漢語ということになるのだが、連濁している。また、「アメリカ」も和語ではないのに連濁している。「話し中」は逆に和語との複合語なのに連濁していない。このことから、「中」とむすびついてできる派生語の連濁は、単

なる語種の性質の問題ではないということが言えよう。となるとその語のもつ意味が関係しているのかも知れない。そこで語の持っている意味に注目してそれぞれの語を分類してみた。

3-3-1 「～しているところ」、又は、「～している最中」というかたちで
いいかえられる語

例) テスト中 工事中 準備中 授業中 請求中 出願中 取込中
電話中 申請中 放送中 話し中

これらには、連濁が見られない。これについては、富田(1988)も同様の指摘をしている。

3-3-2 「～の中」で言い換えられる語

例) 火中 渦中 山中 水中 胸中 本文中 49都道府県中 5人中
心中(シンチュウー心中お察します)

ここでも、連濁は見られない。

3-3-3 「～の中」全てをさすもの

例) 町じゅう 世界じゅう 家じゅう 県じゅう

ここでは、全ての語に連濁が見られる。

3-3-4 「中」がある一定の期間をさすもの

例) 今週中 来月中 一両日中 来週中 午前中 今年度中
夏休み中(チュウ) 日中…………… 連濁なし
今日じゅう 今年じゅう 明日じゅう 夏休みじゅう
一日じゅう 一年じゅう…………… 連濁あり

ここでは連濁しているものと、そうではないものが見られる。特に「夏休み中」という語は2つの読み方を持っている。

例) 1. 夏休みちゅう アルバイトをした。

2. 夏休みじゅう アルバイトをした。

上記の2つの文は、意味が違っている。1は、夏休みの間の数日をアルバイトに費やしたという意味になるが、2は、夏休みの間ずっとアルバイトをしたという意味にしかならない。森田(1984)は「中」のつく派生語についての詳細な分析をすでに行っているが、それによると期間をあらわすという意味とは別に、「～の間ずっと」という意味で分類している。この方法に従うと、

3-3-5 「中」が「～の間ずっと」という意味をもつもの

例) 夏休みじゅう 一年じゅう 一日じゅう …… (すべて連濁している)

の語が取り出せる。前述の3-3-4からこれらの語を削除すると

3-3-4'

例) 今週ちゅう 来月ちゅう 一両日ちゅう 来週ちゅう 午前ちゅう
今年度ちゅう 夏休みちゅう …………… 連濁していない(グループ1)
今日じゅう 今年じゅう 明日じゅう … 連濁している(グループ2)

が、残った。それぞれのグループの共通点を考えてみると「夏休みちゅう」を除いて連濁を起こしているのは和語であるということがわかる。つまり、3-3-4'の中では、さらにそれぞれの語が和語か漢語かによって連濁するかどうか決定されると考えられる。森田(1984)はこの点について、グループ2を例外とみなし、それ以上の分析をしていないが、それよりはむしろ、「夏休みちゅう」を例外としてグループ1から除外したほうがよいと思われる。

3-3-6 同音語における意味の違いを表す手段としての連濁

残る語は、

心中(シンジュウ) 家中(カチュウ)

の2語である。「心中」は「無理心中」というように自殺の意味があり、「家中」は、家族を意味する老人語である。この2つは前述のどの類にも入らないが、それぞれ「心中」(シンチュウ)、「家中」(イエジュウ)と意味的に対立している。従ってここでは連濁の有無が意味の違いを表していると考えられる。このように考えると、3-3-4' で例外とした「夏休み中」(ナツヤスミチュウ)をこの類に入れることも可能となる。

4. 終わりに

ここでは、いままでの考察の結果をまとめてみたい。図1は語を前述の3-3-1から3-3-5の意味区分にそってまとめ、さらに「チュウ」と読む語と「ジュウ」と読む語の2つに分け表にしたものである。

チュウ	ジュウ
3-3-1 「何かの最中」 テスト中 工事中 授業中 準備中 請求中 出願中 取込中 電話中 申請中 放送中 話し中	
3-3-2 「～の中」 49都道府県中 山中 水中 火中 渦中 胸中 本文中 心中 5人中	3-3-3 「～の中」全て 町中 世界中 家中 県中
3-3-4' 期間 (G.1 漢語系) 今週中 来月中 一両日中 来週中 午前中 今年度中	3-3-4' 期間 (G.2 和語系) 今日中 今年中 明日中 3-3-5 「～の間ずっと」 夏休みじゅう 一年じゅう 一日じゅう

本稿では、「中」のつく派生語についてどのような時に連濁するかについて考察した。その結果、連濁の有無には、各語の持っている意味や語種（漢語か和語か）が深くかかわっていることが分かった。今後は、

1. この結果が実際に学習者の読みの判断基準として妥当なものとなるかどうか
2. 他の派生語における連濁にも同様の現象がみられるかを課題として取り上げ、考察していきたい。

(日本語教育)

【引用・参考文献】

- 大坪一夫（1982） 「連濁」 日本語教育辞典 大修館 P.50
奥津敬一郎（1982） 「複合語」 同上
奥村三雄（1984） 「連濁」 「日本語学」5月号 Vol.3
基礎日本語学習辞典（1986） 凡人社
金田一京助他（1987） 新明解国語辞典 三省堂
杉藤美代子編（1989） 「日本語の音声、音韻（上）」
（講座日本語と日本語教育2） 明治書院
玉村文郎（1982） 「語種」 日本語教育辞典 大修館書店 P.285-289
玉村文郎（1984-85） 「語彙の研究と教育上、下」 国立国語研究所編
富田隆行他（1988） 「表記」（教師用日本語ハンドブック2）国際交流基金
林 大 編（1990） 日本語教育ハンドブック 大修館書店
森田良行（1984） 「基礎日本語3」 角川書店